



縣社に昇格せる  
湯本町温泉神社

元祿二年三月十二日神主佐波古宮内領主内藤家への明納書上  
一、天武天皇の御宇白鳳二  
發面年九月九日小子部連鉢釣御勅命被爲御建立少彦名  
命に奉祀候昔時の御社地は當時神主屋敷と相成候御手洗湯邊に御座候  
二、醍醐天皇の御宇延喜の年中、式内の神社に撰上延喜神名牒に記載せられ候  
三、後醍醐天皇の御宇曆應三『興國元年なるべし』庚午年九月昔時温泉山『當時觀音山と稱す』の中腹に社地を設け遷座相成候  
四、靈元天皇の御宇の延寶五戊午歲御當代内藤左京太夫様當社御再建被爲在候  
五、當社祭日は春秋二季春四月八日、秋九月九日に候  
七、往古神領不詳  
福島縣鑄泉誌に曰く  
市街の南端温泉神社あり  
延喜式内磐城七座の一にして大己貴命少彦名命、二神祭祀す云々

青葉も深くなります。月雨しこく降ります。江戸の花は紅柳は緑と申す色街のさんざめく賑ぎやかさの裏面には住みなれたブレイスをすて行くものもあり、来るものもある、すべては戀のサスマエそれからそれへと轉々として曾つたものは別れ、來なかつたがよかつた。半に居ればよかつたと親のため！借金許りでなく言ふに言はれぬこんがらがつた後下川神幸の典を止め村内表は彼女等色街の女には痛切に体感されるであらふ、母歳四月八日菊多郡下川浦御幸山に神幸すること、なれり、是れ當社の大祭日なり後明治四年戸籍法制定に依り村社に編入同十二年一月二十七日郷社に昇格二十二年官許を得て例祭日を五月八日と改む同四十年十二月神饌帛料供進社に指定大正六年七月社地の大擴張を行ひ拜殿改築遷座祭を執行所手水舎を新築す。

た、見送り人三島屋の八代姐さん其他、この姐さんは誰あらふ、平のモラトアムが發表されて地方人驚怖に襲はれるや彼女はなくなり！其の夜より御座敷にて引き籠り心ある實姉と打電して呼び寄せ早々家を開くと言つてた事もある、落ちつく先は青根すくなにもなり平にて料亭此處に今一つ小名浜に喜んで此の舉に出でたものある、彼女はかつて借金勇姐さんではある此處に今一つ小名浜に喜んで此の舉に出でたものある、彼女はかつて借金

◆福清に居つた光世は植田へ行つて、千代今度湯本新軀へ来て小蝶◆久本の清奴◆一寸雲がくれして居つたが半のツ、ジ戀しく舞戻りは八日の急行で歸り咲きは？◆三島家に又も新妓現はるサン子と稱す◆同じく品澤に都と名乗る妓共に日光で持つ今市と宇都宮から前者は元越の家に居つた事あり、小龍後者は福壽で福奴◆梅幸と梅香は一寸來て去るこれを花見藝妓と稱すゲナなり、自宅は岐阜市外加納町西加納一〇九二であるど

◆例の玉川村林城の血流たる三好屋の多賀子は小野新明一で〇〇◆久本の友千代、本日小野新町へ住み替へ！

◆桜咲く最早ぞ嬉しそう我れにもありしか幼かりし時。さもなくぞゝろあるく夜。

若草の野にかゝれば黒髪のすみ咲き誇るなの花畠に白蝶のあまた遊べる眞實頃哉。

草原に遊べるさまぞ嬉しそう我れにもありしか幼かりし時。さもなくぞゝろあるく夜。

黒髪にかゝれる花もたのしげに歩むぞうれし二人連れには。

咲き亂るつゞじぞうるはしおこめ子の見されるさまに我なづめり

五月六日

社縣社昇格	(次第不順)
石藏建築専門	馬日石材彫刻
消防小頭	鯨岡賢二
區會議員	比佐賢二
區會議員	柏木清一
區會議員	淨法寺文英
溫泉神社々司	佐波古直二
溫泉神社氏子總代	白石熊
若松條郎	若松利惣
井坂千代子	柏木清一
菅波駒之助	菅波駒之助
鈴木長士	鈴木金太郎
馬日政治	馬日政治
後藤利吉郎	鯨岡賢二
鯨岡久一郎	鯨岡久一郎
山本春蔵	山本春蔵
鰐田輝雄	鰐田輝雄
鰐田輝雄	鰐田輝雄
鈴木庄次	鈴木庄次
荒物商店	吉田恭平商店
區會議員	鈴木屋自動車部
町會議員	赤塚材木店
町會議員	吉田恭平商店
町會議員	渡邊長作
町會議員	田丸屋酒店
町會議員	渡邊
町會議員	清吉
町會議員	上川才松
町會議員	吉田宗雄
町會議員	大貫經次